

金沢市立内川小学校
平成25年度後期 学力向上の取組

1 平成25年度石川県基礎学力調査及び全国学力・学習状況調査の分析

(1) 国語科

- ・俳句についての基礎的な知識が不十分である。
- ・「書く」ことについての力が不足している。無回答が少ないことから「書く」ことに抵抗は少ないが、「段落の要点を書く」「条件に合った文章を書く」ことに課題がある。
- ・説明的文章において、段落に書かれている内容を正確に理解する力が不十分である。
- ・ローマ字や漢字を読んだり書いたりする力はある。
- ・基礎的なことわざの意味についての知識は、十分身につけている。

(2) 算数科

- ・基礎的・基本的な学力の定着はしている。
- ・学習した内容を使って、身の回りの場面を観察したり、式やグラフなどが表わしている内容を読み取ったり、筋道を立てて考えたりすることに課題がある。
- ・数直線の1目盛りの読み取りや、図形の応用問題に課題がある。

(3) 社会科

- ・石川県の地域や産業、日本の産業、国土についての知識は十分身につけている。
- ・世界の海や大陸についての基礎的な知識が不十分である。
- ・資料のグラフや表を読み取る力が不十分である。

(4) 理科

- ・基礎的・基本的な学力の定着はしている。
- ・理科の学習で学んだことを身の回りのことに関連付けて考える力が付いている。
- ・電気・磁石など物理的分野については、理解があいまいである。

2 前期までの学校としての共通した取組

(1) 学習基盤の定着について

ア 学校生活全体の中で、「聞くこと、伝えること」を指導している。「聞くこと」では、メモの取り方等、生活に活用できるよう取組を行ってきた。また、教師の話聞き逃さず、連絡帳に書くことを全校で取り組んでいる。「伝えること」では、文を短くし、つなぎの言葉を用いて、自分の意見や話をわかりやすく相手に伝えることなどを習慣化できるように指導してきた。

イ 学習規律を身につけさせるために、次の授業の準備をしてから休憩時間に入ること・朝学習の取組、授業開始2分前の着席、授業中の姿勢や発言の仕方などを、全校で共通理解して取り組んでいる。特に、2分前着席には長期休業明けに取組週間を設け意識づけを行った。

(2) 授業の改善について

ア 教師の指導力向上のために

- ・夏季休業前に7月までの取組をふりかえり、研修会を行った。複式の授業形態のそれぞれの工夫や「書く力をつける」ための取組を紹介し合うことで授業力の向上を図った。
- ・長期休業中に若手教員が算数の模擬授業を行った。発問や板書などについて全教職員で具体的

な助言を行うことで授業力の向上に取り組んだ。

イ 各教科での取組

漢字練習、計算練習などの基礎・基本となるものは、授業中はもちろん、朝学習「わかたけタイム」や家庭学習でも繰り返し行ってきた。漢字は2ヶ月に1度、全校でまとめの漢字テストを行い、合格するまで繰り返し取り組ませることで、完全に漢字を習得できるようにしている。金曜日の朝学習で単元別算数プリントを全校で取り組んでいる。児童一人一人の理解力を把握し、きめ細やかに指導を行うことで計算力がついてきている。理解が不十分な児童には金曜日6限目の「にこにこ教室」（算数科の補習授業）を行い、補充指導をしている。

ウ 書く力をつけるために

- ・昨年度に引き続き、「書く」ことに力を入れている。全教科で、感想や考えを書く、定期的な日記や作文を書く等の取組を行うことで、「書く」ことに抵抗を感じる児童が少なくなってきた。
- ・国語科、社会科、生活科、総合を中心に「新聞に書く」「報告書を書く」など、調べたことを文章にまとめる活動を多く取り入れた。自分の考えや気付き踏まえて書く指導も繰り返し行うことで「書く力」の向上を図った。

3 後期学力向上の取組

(1) 国語科

- ・切れ字、季語など俳句の基礎的な知識を活用し、俳句を作る活動を多く取り入れる。
- ・**今年度は、「書く」ことに力を入れている。説明文は3つ（初め・中・終わり）に分かれていること。初めには「問いかけの文」、終わりには「問いに対する答え」が書かれていることなど説明文の構成について指導を徹底していく。説明文の学習単元の最後には、文章の要旨をまとめるなどの「書く」活動を必ず設定し、冊子にまとめ図書館に置いたり、掲示するなどで成果を残していく。また、低・中・高学年別の観点表を作成し、授業者の評価をしやすいことで、学習の成果と課題の検証を繰り返しながら指導力の向上を目指す。**

(2) 社会科

- ・都道府県や国名、大陸名などを地図上で確認させ、定期的にプリント等で位置を確認する。

(3) 算数科

- ・既習の確認を授業に取り入れることで定着を図り、既習を応用して学習できるようにする。また、学習のキーワードを入れてふりかえりを書く活動を多く設ける。

(3) 理科

- ・電気や磁石などで学習したことが生活の中にどのように生かされているかを考える授業を多く設定する。

(4) 教師の授業力向上のために

- ・全教職員が複式の研究授業を行い、それぞれの工夫を参観し意見を交換することで「意見の交流のさせ方」、「発問」、「板書」の力をつけるようにしていく。また、「書く」力をつけることに焦点を当てて授業研究を行い、学校研究の柱である「書く力」をつけるための取組みの内川スタイルを確立していく。